

○ 気候変動と食生活

気候変動は、農作物の収穫に影響を及ぼしており、私たちの食生活にも関係する見過ごすことのできない大きな問題です。

本号では、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構（農研機構）が公表した、「地球温暖化に対応したアボカドとミカンの栽培適地予測マップ」に関する研究について紹介します。

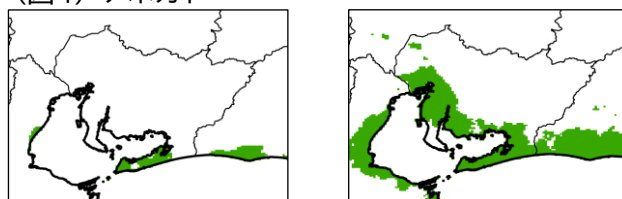
○ アボカドとミカンの栽培適地予測マップ

この研究では、温室効果ガスの排出シナリオを用いて気温のシミュレーションを行いました。その結果を使用し、地球温暖化の影響により、栽培適地の拡大が期待されるアボカドと、栽培適地の変化が懸念されるミカンについて、栽培適地予測マップを作成しました。

現在、アボカド等の亜熱帯果樹の栽培適地は、南西諸島や伊豆・小笠原諸島など島しょ部が中心ですが、温室効果ガスの排出が中程度のシナリオで推移すると、アボカドの予測マップは図1に示すとおりであり、愛知県の沿岸部が栽培適地になるとしています。

一方、同じシナリオで推移した場合のミカンの予測マップは図2に示すとおりであり、現在よりも栽培適地は内陸側の地域へ移動するとしています。ミカンは栽培適温域が狭いため、わずか1℃の気温上昇でも生産に悪影響を受ける可能性があります。実際に産地では、日焼けや浮皮などの高温障害が多く報告されています。

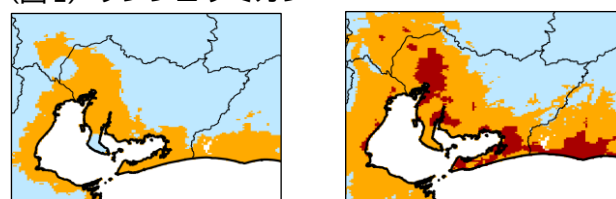
(図1) アボカド



現在（1990年-2009年） 今世紀半ば（2040年-2059年）

■ アボカドの適地
□ アボカドの適地より低温の地域

(図2) ウンシュウミカン



現在（1990年-2009年） 今世紀半ば（2040年-2059年）

■ ウンシュウミカンの適地
■ ウンシュウミカンの適地より低温の地域
■ ウンシュウミカンの適地より高温の地域

温室効果ガス排出が中程度の場合の栽培適地予測マップ

「(研究成果) 温暖化に対応したミカンとアボカドの適地予測マップ*」(農研機構)を基に愛知県が作成

* https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/nifts/167624.html

気候変動の影響を少しでも遅らせるためには、地球温暖化の原因を減らす緩和策が大切です。その一方で、地球温暖化による気候変動の影響に備える適応策も受け入れる必要があります。気候変動の影響は、私たちの身近な食物にも迫っていることが予測されています。県民の皆さん、一人一人が地球温暖化対策に取り組むことが大切です。

愛知県気候変動適応センター

(環境調査センター 企画情報部)

電話 052-910-5489 (ダイヤルイン)

愛知県気候変動適応センターだよりのバックナンバーはこちら
<https://www.pref.aichi.jp/site/ailccac/tekiou-dayori.html>

